

第70回日本公衆衛生学会総会（秋田）へのお誘い

第70回日本公衆衛生学会総会学会長

本橋 豊

秋田大学大学院医学系研究科長・教授

（公衆衛生学講座）

2011年の新春を迎え、日本公衆衛生学会会員の皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

本年秋、秋田県秋田市にて開催される第70回日本公衆衛生学会総会の学会長にご指名いただき光栄の至りです。東北地方での開催は1995年に新井宏朋教授（山形大学医学部公衆衛生学講座）が学会長として山形で開催されて以来で、秋田県では初めてとなります。現在、関係者一同、公衆衛生領域の専門職、研究職、行政職の方々を全国から多数お迎えすることの緊張と期待をもって、準備を鋭意進めております。

東北地方は自然豊かな農村が広がる日本の食糧生産の拠点ということで、良いイメージを持たれる国民が多いと思います。観光資源も豊かで、人情味あふれる日本の「ふるさと」です。一方で、公衆衛生の観点から見ると、かつては塩分の過剰摂取による脳卒中の多発地域というイメージもありました。秋田県は東北の中でも「あきたこまち」に代表される米作地域であり、「きりたんぼ鍋」で連想される豊かな食と「なまはげ」のような伝統文化に育まれた美しい土地柄です。

本総会のメインタイトルは「公共性の地平から見た公衆衛生の将来展望」とさせていただきました。21世紀に入りすでに10年が過ぎましたが、公衆衛生学（Public Health）の存在意義があらためて問い直されている時代になったと実感しています。社会経済のグローバル化や競争原理の激化などにより、公衆衛生においても健康の社会的決定要因の重要性があらためて認識されつつあります。Publicとは「公衆」という意味のみならず、「公共性」という意味が込められているはずですが、Public Healthを「公共の健康学」と読み直すならば、公共性とは何なのかということが、公衆衛生の立場から問い直されなければなりません。「公共性の地平からみた公衆衛生の将来展望」というテーマには、混迷を深める現代社会の中で、公共性というキーワードが公衆衛生学に新たな展望をもたらしてくれるのではないかと期待も込めています。第70回という記念すべき総会において、今後10年の公衆衛生学の将来展望を語り合える場としたいと考えています。

本総会が開催される10月中旬は、秋田県の各地で紅葉が始まる絶好の観光シーズンでもあります。このような美しい季節のただ中で、公衆衛生に関する研究と実践について、日本公衆衛生学会員の皆様が一同に会して討議できる場を提供できることを、学会長として大変うれしく思います。

多数の会員の皆様が秋田の地にお越しくださり、本学会総会に積極的にご参加いただくことを衷心よりお待ち申し上げます。

第70回日本公衆衛生学会総会（秋田）ご案内（第一報）

1. 会 期

2011年10月19日（水）～21日（金）

2. 会 場

秋田県民会館（秋田県秋田市千秋明德町 2-52）

秋田アトリオン（秋田県秋田市中通 2-3-8）

秋田キャッスルホテル（秋田県秋田市中通 1-3-5）

3. 学会長・学会長代行・副学会長

名誉学会長：佐竹敬久（秋田県知事）

名 誉 顧 問：穂積 志（秋田市長）

学 会 長：本橋 豊（秋田大学大学院医学系研究科長・教授）

学会長代行：中野 恵（秋田県健康福祉部長）

副 学 会 長：佐藤 充（秋田県生活環境部長）

豊嶋 司（秋田市福祉保健部長）

小山田雍（秋田県医師会長）

4. 学会総会事務局

総 会 事 務 局：秋田県健康福祉部健康推進課

学術部会事務局：秋田大学大学院医学系研究科公衆衛生学講座

運 営 事 務 局：株式会社 ICS コンベンションデザイン

5. プログラム（予定）

総会主題：公共性の地平からみた公衆衛生の将来展望

- 学会長講演：本橋 豊（秋田大学大学院教授）
- 特別講演1：佐々木毅（学習院大学教授・元東京大学総長）
- 特別講演2：銭谷眞美（東京国立博物館長・元文部科学省事務次官）
- 教育講演／シンポジウム／研修フォーラム
- 第70回総会記念鼎談／奨励賞受賞者講演
- ランチョンセミナーなど

6. 一般演題・自由集会申し込み

2011年4月1日（金）～5月31日（火）正午

7. 今後の情報

日本公衆衛生雑誌第58巻2号

総会ホームページ（<http://jsph70.umin.jp/>）に順次掲載